

シラバス

第3学年

SYLLABUS 2021

福井県立 金津高等学校
Kanazu High School

第3学年 目次

【教科】	【科目】	【対象クラス】	ページ
国語	現代文B	全	…… 3
	古典B	全	…… 5
地理・歴史	世界史B	文系	…… 7
	日本史B	文系	…… 9
	地理B	理系	…… 11
公民	倫理	文系	…… 13
	政治経済	文系	…… 15
	時事探究	文系	…… 17
数学	数学Ⅱ・B	文系	…… 19
	数学Ⅲ	理系	…… 21
理科	物理	理系	…… 23
	化学基礎	文系	…… 25
	化学	理系	…… 27
	生物基礎	文系	…… 29
	生物	理系	…… 31
	地学基礎	文系	…… 33
体育	体育	全	…… 35
英語	コミュニケーション英語Ⅲ	全	…… 37
	英語表現Ⅱ	全	…… 39
総合的な探究の時間	I P T	全	…… 41

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
国語	現代文B	3年	普通科	2

1. 学習の目標

近代以降の様々な文章を読む能力をさらに高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方をより深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 教科書

- ・「高等学校 現代文B」〔改訂版〕（三省堂）

3. 副教材等

- ・「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版）
- ・「評論速読トレーニング 1500」（数研出版）
- ・ 問題集 など

4. 授業の進め方

- ①論の展開や場面構成などを意識しながら読み進めることで、筆者の主張（評論文）や登場人物の心情（小説）を的確につかみ、入試に必要な読解力を身につけていく。
- ②教科書を正確かつ丁寧に読解していくことはもちろんのこと、教師からの発問に答えたり自分の考えを文章にまとめたりする発展学習を行うことで、自らの考えを表現する能力を養う。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ①語彙力が身につけていなければ正確な読解はできない。文章中の意味の分からない語句は、面倒くさくならず必ず辞書を引いて確認すること。
- ②通常の読書とは違って授業や演習で文章を読む場合には、キーワードやキーセンテンス、登場人物の心情が表れている表現などに傍線を引くなどして、読解の鍵となる部分が何かを意識して読み進めること。
- ③授業で扱う文章を前もって通読し、自分なりの疑問点を明らかにしておくことと良い。そのことで授業を受ける意識が高まり内容理解も進む。
- ④読解に必要な語彙力を身につけるために必要に応じて小テストを行うので、しっかりと学習した上でテストに臨むこと。また、間違えたものはその都度正しい意味や漢字を辞書で確かめるなどして確認すること。
- ⑤家庭学習用の問題集を計画に沿って行い、より多様な文章を読解するトレーニングを積むことにより、語彙や背景知識を増やして高度な思考力を養うようにすること。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

中間・期末考査の成績、小テストの成績、提出物の実施および提出状況、ノートの内容、そして主体的・意欲的に授業に参加しているかどうかなどの態度を総合的に評価する。

現代文B 年間学習計画表

科目	現代文B	単位数	2単位	学年等	3年	担当者					
教科書	「高等学校 現代文B」 [改訂版] (三省堂)			副教材等	「プレミアムカラー国語便覧」 (数研出版) 等						
目標	近代以降の様々な文章を読む能力をさらに高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方をより深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。										
評 価 の 観 点											
関心・意欲・態度		話す・聞く能力		書く能力		読む能力		知識・理解			
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解しようとしていたりしているか。		自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしているか。		自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書いているか。		自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりしているか。		表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけているか。			
学期	月	考査	学習項目(単元)	学習内容および目標	評価の観点					評価方法	
					関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解		
1 学 期	4	中間考査	評論 「ぬくみ」 (鷗田 清一)	・論旨を正確に追いながら、筆者の言う「相互性」が持つ意味について読み取る。 ・抽象的な問題を積極的に考えようとする態度を養い、論理的思考力を高める。	○	○	○	○	○	授業態度 発問評価 プリント 定期考査	
	6		小説 「鞆」 (安部 公房)	・文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて認識を深める。 ・短編小説を味読することにより、人間・人生、社会への関心を深め、それらへの洞察力を養う。	○	○	○	○	○		授業態度 発問評価 プリント 定期考査
	7	期末考査	小説 「檸檬」 (梶井 基次郎)	・作中人物の行動、心理、性格を深く読み取り、作者のものの見方、感じ方を的確に理解する。 ・短編小説を味読することにより、人間・人生、社会への関心を深め、それらへの洞察力を養う。	○	○	○	○	○	授業態度 発問評価 プリント 定期考査	
			評論 「ある(共生)の経験から」 (石原 吉郎)	・論旨を正確に追いながら、他者との関係性のあり方について考える。 ・抽象的な問題を積極的に考えようとする態度を養い、論理的思考力を高める。	○	○	○	○	○		授業態度 発問評価 プリント 定期考査
2 学 期	9	中間考査	評論 「日本文化の雑種性」 (加藤 周一)	・論旨を正確に追いながら、筆者の考える「日本文化の雑種性」について理解を深める。 ・抽象的な問題を積極的に考えようとする態度を養い、論理的思考力を高める。	○	○	○	○	○	授業態度 発問評価 プリント 定期考査	
	11		センター試験演習	・様々な評論を論の展開に注意して読み、筆者のものの見方や考え方を的確に把握する。							授業態度 発問評価 プリント 定期考査
	12	個別試験対策演習	・様々な小説を読み、登場人物の心情を的確につかみ、それぞれの表現効果を理解する。	○			○	○	授業態度 発問評価 プリント 定期考査		
3 学 期	1		センター試験演習	・様々な評論を論の展開に注意して読み、筆者のものの見方や考え方を的確に把握する。	○			○		○	授業態度 発問評価 プリント
			個別試験対策演習	・様々な小説を読み、登場人物の心情を的確につかみ、それぞれの表現効果を理解する。				○	○		

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
国語	古典B	3年	普通科文系	4
			普通科理系	2

1. 学習の目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 教科書

- ・「改訂版 古典B 古文編／漢文編」(数研出版)

3. 副教材等

- ・「Key Point 古文単語330」(いいずな書店)
- ・入試対策問題集など

4. 授業の進め方

古文、漢文の読解を通して、古典のおもしろさを味わう。

小テストを通して、古文語彙力および漢文句法の強化を図る。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

授業には必ず予習をして臨むこと。分からない言葉や文章に行き当たったら、すぐ辞書を引くこと。

3年次までに学習した古典文法や漢文句法など、暗記すべき事項がおさえてあること。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

提出物の評価と定期考査の成績、授業時に実施する小テストおよび学習活動への参加の姿勢や態度等を総合して評価する。

古典B 年間学習計画表

科目	古典 B	単位数	4単位(文系) 2単位(理系)	学年等	3年	担当者		
教科書	「改訂版 古典B 古文編／漢文編」(数研出版)			副教材等	「Key Point 古文単語330」(いっずな書店) 「例文による漢文の習得」(浜島書店) 等			
目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。							
評価の観点								
関心・意欲・態度			読む能力			書く能力 知識・理解		
古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。			伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。		
学期	月	考査	学習項目(単元)	学習内容および目標	評価の観点			評価方法
					関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	
1 学期	4	中間考査	『和泉式部日記』 ・薫る香に	・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査
	5	考査	『十六夜日記』※文系のみ ・鎌倉への出立					
	6	期末考査	『大鏡』 ・道真と時平 ・村上天皇と安子※文系のみ	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査
	7	考査						
	4	中間考査	『呂氏春秋』 ・知音 『後漢書』 ・梁上君子	・文章の展開を理解する。 ・登場人物の心情を読みとる。 ・故事成語の意味を確認し、現在の用法を理解する。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査
	5	考査						
6	期末考査	『史記』 ・璧を趙に帰さしむ	・句法や漢文に頻出する基本的な語彙に注意しながら現代語訳し、登場人物の主張を理解する ・本文中の歌の内容を理解し、登場人物の心情を読みとる。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査	
7	考査							
2 学期	9	中間考査	『源氏物語』 ・紫の上の苦悩 『紫式部日記』 ・同僚女房評※文系のみ	・『源氏物語』の世界に親しみ、古典の知識に基づいて、登場人物の心情を読み取る。 ・平安時代の風俗や風習を理解する。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査
	10	考査						
	11							
	12	期末考査	・センター試験対策演習 ・個別試験対策演習	・既習の知識に基づき、古文の文章内容を的確に捉える力を養う。 ・様々な古典作品を読むことで、多様な物の見方や考え方を養うとともに、古典の世界への関心を広げる。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査
	9	中間考査	・捕蛇者説	・句法を確認しつつ、捕蛇者の発言の内容を理解する。 ・筆者の主張を理解する。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査
10	考査							
11	期末考査	・センター試験対策演習 ・個別試験対策演習	・既習の知識に基づき、漢文の文章内容を的確に捉える力を養う。 ・様々な古典作品を読むことで、多様な物の見方や考え方を養うとともに、古典の世界への関心を広げる。	○	○	○	授業態度, 発問評価 プリント, 定期考査	
12	考査							
3 学期	1		・センター試験対策演習 ・個別試験対策演習	・既習の知識に基づき、漢文の文章内容を的確に捉える力を養う。 ・様々な古典作品を読むことで、多様な物の見方や考え方を養うとともに、古典の世界への関心を広げる。	○	○	○	授業態度, 発問評価

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
地理歴史	世界史B	3年	普通科文系	4

1. 学習の目標

3年次では、第8章「近代ヨーロッパの成立」から第16章「現在の世界」までを学習します。

- ① 世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探求していく態度を身につける。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解する。
- ③ 世界史についての資料を適切に選択し、資料に基づいて考察した結果を適切に表現する。
- ④ 現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深める。

2. 教科書

山川出版社 「詳説世界史」

3. 副教材

帝国書院 「最新世界史図説 タペストリー」
 東京法令出版株式会社 「winning COM.-PASS 世界史の整理と演習」
 啓隆社 「世界史重要語句 CheckList」
 ※大学入試共通テスト対応の問題集を適宜取り入れます。

4. 授業の進め方

教科書に沿って進めていきます。また副教材の資料集を用いて教科書の内容を補充します。学習内容の定着を図るため、小テストを随時実施します。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

まずは1時間の授業を大切にしましょう。できれば授業前に教科書に目を通しておくと、授業中の説明等がわかりやすくなります。授業中は板書内容を書き取るだけでなく、口頭での説明でも重要なことはメモしていきましょう。授業中の疑問点はそのままにしておかず、積極的に質問をして早期に解決しましょう。

また世界史の学習では地図を多用します。授業中に出てきた地名をすぐに確認する習慣をつけてほしいのと、略地図で構いませんから自分で地図が書けるようにしておくとお大変役に立ちます。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、中間・期末考査の成績、課題の提出状況、授業中の態度等を総合して行います。

7. その他の留意点

世界史の学習は、暗記が中心と思われるかもしれませんが、ただ年代や人名を覚えることだけではありません。社会の変化や政治体制の変化など歴史の流れも理解する必要があります。授業はもちろんですが、世界史の学習を通して歴史的視点に立ったものの見方や考え方を養い、現在の様々なできごとや、自分自身の生き方やあり方を歴史的な視点から見つめなおすことが大切です。世界史は、一見、過去のできごとにすぎないと思われるかもしれませんが、しかしその内容は、他の教科や科目の学習内容と関連したり、世界で現在起こっている様々なできごとに結びついています。授業だけにとらわれることなく、新聞やニュースを見たり聞いたりして、できるだけ興味や関心を広げてみてください。

世界史B 年間学習計画表（文系）

	学習項目（単元）	学習内容	評価の観点				評価方法
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解	
1 学 期	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	・大航海時代，ルネサンス，宗教改革 ・重商主義，絶対王政，ヨーロッパ諸国の海外進出	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展	・産業革命，アメリカ独立革命，フランス革命 ・ウィーン体制，ヨーロッパの再編，南北戦争	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
2 学 期	第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族 第14章 二つの世界大戦	・オスマン帝国の動揺，南・東南アジアの植民地化 アヘン戦争，日清戦争 ・ヨーロッパ列強の帝国主義政策，アジア諸国の改革と民族運動 ・第一次世界大戦，ロシア革命，ヴェルサイユ体制 ・世界恐慌，ファシズム，第二次世界大戦	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
	第15章 冷戦と第三世界の独立 第16章 現在の世界 共通テスト対策演習	・冷戦構造，第三世界の自立，米・ソの動揺 ・冷戦の解消，ソ連・東欧社会主義圏の解体 ・第三世界の多元化と地域紛争	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価 ・定期考査
3 学 期	共通テスト対策演習 私立大入試対策演習 国公立大2次試験対策演習	・希望者に対して実施	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題評価

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
地理歴史	日本史B	3年	普通科文系	4

1. 学習の目標

3年生では、2年次の履修に続き、第8章「幕藩体制の動揺」から近現代までを学習します。特に次の4点を目標に学習します。

- ① 2年次に続き、日本史の基本的な事項を理解する。
- ② 暗記するだけでなく、基本的事項の上に立って歴史的思考力も身につける。
- ③ 大学受験に対応できる学力を身につける。
- ④ 偏った歴史認識に注意しつつ、国際的視点をもった自分なりの正しい日本史像を作り上げる。

2. 教科書

山川出版社 「詳説日本史B」

3. 副教材等

第一学習社 「最新日本史図表」
山平商会 「ポテンシャル日本史 基礎力養成編」
啓隆社 「日本史 重要語句 Check List」

4. 授業の進め方

2年次と同じく教科書に沿った内容です。12月初めには現代までを終え、センター試験等に対応できるよう、分野別・時代別の復習や問題演習を行います。授業では副教材の図表や史料を多く活用します。また、単元によっては地域の教材を利用することで理解を深めていきます。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・ 1時間の授業を大切にする
授業にはあらゆる情報が詰まっています。ノートやプリントをまとめるだけでなく、説明のなかで出てきた補足や関連事項も聞きもらさず、どんな小さいことでもメモをとることを心がけましょう。
- ・ 予習・復習を怠らない
1回の授業だけでは確かな学力は定着しません。日々の予習・復習をするかしないかで、理解度に大きな差が出ます。例えば予習では、次に進むであろう教科書の範囲を前もって読んでおくだけでも、流れのつかみ方がだいぶ違います。復習では、小テストや課題プリントの見直しも大事ですが、教科書・ノートを参考に、自分の力で年表や相関図を書いてみるのも効果的でしょう。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

授業への意欲や態度、そして学んで得た学力などを含めて総合的に評価していきます。したがって考査の得点を基準に、小テストや課題、学習態度などの平常点も加味していきます。

7. その他の留意点

日本史は小学校や中学校である程度学習する教科ですが、高校の学習では、歴史的な知識と考える力をさらに高めていくことができます。数ある歴史的な出来事や人物の中で、何か一つでも自分の興味があるものを見つけられれば、学習にも身が入るはずですよ。

また、よく聞くことも大切です。授業を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり担当の教員に質問することを怠らないようにしましょう。

日本史B 年間学習指導計画表（文系）

学期	月	学習項目（単元）	学習内容	評価の観点				評価方法
				関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解	
1	4	8 幕藩体制の動揺 ①幕政の改革	・欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想及び産業の新たな展開に着目して、幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について学習します。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント評価 ・小テスト ・定期考査
	5	②幕府の衰退 ③化政文化						
1	6	9 近代国家の成立 ①開国と幕末の動乱	・開国、幕府の滅亡と新政府の成立について学習します。 ・文明開化などの欧米文化・思想の影響や国際環境の変化に着目して、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでのわが国の近代化の推進について学習します。 ・条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、立憲国家の展開を学習します。 ・国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発達や教育制度の拡充に着目して、近代産業の発展と近代文化の特色について学習します。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント評価 ・小テスト ・定期考査
	7	②明治維新と富国強兵 ③立憲国家の成立と日清戦争 ④日露戦争と国際関係 ⑤近代産業の発展 ⑥近代文化の発達						
2	9	10 近代日本とアジア ①第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦前後の対外政策の推移や体制が国内の経済社会に及ぼした影響について学習します。 ・都市の発達や大衆社会の成立に着目して、政党の役割と政治や社会運動の動向などを学習します。 ・国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など第二次世界大戦と日本との関わりについて学習します。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント評価 ・小テスト ・定期考査
	10	②ワシントン体制						
	11	③恐慌の時代 ④軍部の台頭 ⑤第二次世界大戦						
2	12	11 戦後の日本 ①占領と民主化	・第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立などわが国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係の確立について学習します。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント評価 ・小テスト ・定期考査
		②冷戦の開始と日本の復興						
2	12	12 55年体制と経済成長 ①55年体制	・生活意識や価値観の変化に着目して、戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上について学習します。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント評価 ・小テスト ・定期考査
		②高度成長期の経済と社会 ③経済大国 ④現代の世界と日本						
3	1	センター試験対策	・センター試験対策・演習等を行います。 ・国公立2次・私大対策を行います。	○	○	○	○	・授業態度 ・センター演習

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
地理歴史	地理B	3年	普通科理系	3

1. 学習の目標

- ①現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を身につけます。
- ②地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養います。
- ③自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について、世界的視野から考察し、現代世界が多様な地域から構成されていることやそれらの地域には類似性や空間的な規則性などが見られることを理解します。

2. 教科書

帝国書院 「新詳地理B」
帝国書院 「新詳高等地図」

3. 副教材等

とうほう 「新編 地理資料 2020」
啓隆社 「新地理要点ノート」
福井県高等学校社会科研究会地理部会 「LANDSCAPE FUKUI」

4. 授業の進め方

- ・教科書の内容に沿って、副教材等を使いながら授業を進めます。
- ・授業では、教科書以外に、地図帳や様々な資料を使いながら、多面的な理解を図ります。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・「地理」は、丸暗記が通用する科目ではありません。知識の意味内容が理解され、使いこなせる知識とすることができるかが重要です。そのためには、なぜそういうような事象がその地域に見られるのかを、常に自分に問うことが大切になります。いつも、「なぜそうなるのか」を考えながら、授業に取り組んでいきましょう。
- ・「地図帳」と「地理資料」を活用しましょう。授業で出てきた地名は、必ず地図帳で確認しましょう。地図帳の地名の所に、簡単な説明を書き込んで、何度も目を通すことは、確かな学力につながるでしょう。資料は、自分の考え方を証明するのに役立ちます。具体的な国について、様々な指標がどの程度のものになるかをイメージしてから、資料を見ると、自分の理解力を把握することができるでしょう。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

中間と期末の定期考査の成績、ノート等提出物の内容、学習活動への参加の態度などで評価します。

7. その他の留意点

なぜ、そういう事象がその地域に起きるかわからなかったり、授業内容で疑問があったりする場合は、積極的に担当の教員に質問しましょう。まず、自分で調べることが大事ですが、疑問を放置しないことが最も重要です。質問することをためらわないでください。

地理B 年間学習指導計画表（理系）

学期	月	単元	内容	評価の観点				評価方法			
				関心意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解				
1	4	第Ⅲ部 世界の諸地域 2章 国家規模の地域の調査 1節 地域の考察方法 2節 東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・国・地域ごとの地域区分と考察の方法について理解する。 ・東アジアについて、中国や韓国を中心に、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント評価 ・定期考査 			
									5	3節 東南アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアについて、民族や産業などを構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。
										4節 南アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジアについて、文化・宗教や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。
	6	5節 西アジアと中央アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・西アジアと中央アジアについて、類似的な二つの地域を比較し、共通する一般性や地域の特殊性を考察する。 ・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、対照的な二つの地域を比較し、共通する一般性や特殊性を考察する。 	○	○	○	○				
									6節 北アフリカと サハラ以南のアフリカ		
	7	7節 ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。 	○	○	○	○				
	2	9	8節 ロシア	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。 	○	○	○		○		
9節 アングロアメリカ			<ul style="list-style-type: none"> ・アングロアメリカについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。 								
10		10節 ラテンアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカについて、地域の特徴である「ヨーロッパの影響」を、文化や農業・工業と関連づけて考察する。 	○	○	○	○				
		11節 オセアニア	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニアについて、地域の特徴の一つである「アジアとの結びつき」を、文化や産業、観光などの事象と関連づけて考察する。 								
11		3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題 2節 日本が抱える課題の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。 	○	○	○	○				
12	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や統計図表など、資料の読解を中心に学習する。 	○	○	○	○					
3	1	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験に出題されやすい内容を重点に演習する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・センター演習 			

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
公民	倫理	3年	普通科文系	2

1. 学習の目標

- ①人間尊重の精神に基づいて、青年期の自己形成と人間としての在り方、生き方について理解と思索を深めます。
- ②人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付けます。
- ③自分の人生観、世界観を形成するための基礎を養うとともに、思考した過程や内容を表現する能力などを身に付けます。

2. 教科書

東京書籍 「倫理」

3. 副教材等

東京書籍 「要点マスター 倫理 演習ノート」
 浜島書店 「最新図説倫理」

4. 授業の進め方

教科書中心に授業を進めます。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

「倫理」で扱うテーマは、社会や人々との関連の中で人間としての在り方生き方に関わるものがほとんどです。それらに対して、自分ならどう考え、どう行動するかという観点から学ぶことが大切です。そのためには、先哲の思想を学ぶほか、クラスメートの意見に耳を傾けたり、様々な書物や新聞などに考える資料を求めたりすることが大切です。

自分自身の考えを持つということに自信を持ち、現状に満足することなく思考のレベルアップを目指す意欲が大切です。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

中間と期末の定期考査の成績、ノート等提出物の内容、学習活動への参加の態度などで評価します。

7. その他の留意点

よく考えるためには、よく聞くことも大切です。授業を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり質問することを怠らないようにしましょう。

倫理 年間学習指導計画表（文系）

学期	学習項目（単元）	学習内容	評価の観点				評価方法
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解	
1	1 青年期の課題と自己形成 ①青年期の意義 ②青年期の課題と生き方	・人間の定義をはじめとして、人生における青年期の位置づけや特徴について考え、青年期特有の課題であるアイデンティティの確立、自己実現の追究、自己理解の方法などについて考察します。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
	2 人間としての自覚 ①人間とはなにか ②ギリシャの思想 ③キリスト教 ④イスラーム ⑤仏教 ⑥中国の思想 ⑦芸術と人間	・ギリシャ思想は、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの考え方や生涯を中心に、理解を深めます。 ・世界三大宗教であるキリスト教やイスラーム、仏教などを題材に、宗教の意義について理解し、自己の課題と結びつけながら思索することを通して、人間としての自覚を深めます。 ・儒家思想、老荘思想を中心に学習し、その後の中国思想の展開についても考察を深めます。 ・芸術の作品を通して、芸術家の考え方や生き方について考察を深める。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
2	3 国際社会に生きる日本人の自覚 ①日本人の精神風土 ②仏教と日本人の思想形成 ③儒教と日本人の思想形成 ④国学の思想 ⑤庶民の思想 ⑥西洋思想と日本人の近代化 ⑦国際社会に生きる日本人の自覚	・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観等の特質について、日本の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、代表的な先哲の思想などを手掛かりに、自己との関わりにおいて理解します。 ・国際社会に生きる主体性ある日本人としての在り方生き方について、自己の課題意識と結びつけながら考えを深めます。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
	4 現代を生きる人間の倫理 ①人間の尊厳の根拠を求めて ②民主社会と自由を求めて ③社会変革の倫理を求めて ④新たな人間像を求めて ⑤自然や科学技術と人間との関わり ⑥民主社会の成熟のために	・先哲の基本的な考えを手掛かりにしながら、現代の科学技術の根底にある基本的な見方や考え方を理解します。 ・社会と個人との関わりや、民主社会における人間の在り方について考えを深め、民主社会の倫理的な見方や考え方を身につけます。 ・自己の理念に基づいて社会に貢献した先人の思想と実践を手掛かりに、社会参加や奉仕の意義について理解と考察を深めます。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査
3	5 現代の課題を考える ①生命 ②家族 ③地域社会 ④情報社会 ⑤文化と宗教 ⑥環境 ⑦国際平和と人類の福祉	・生命倫理や地球環境問題など現代文明が生み出した諸問題について考えるとともに、自然との共存・共生はどうあるべきかについて考察します。 ・家族の形態、家族機能の外部化、家族の中での性別役割分担の見直し、高齢社会の中での人間の生き方、などについて考察を深めます。 ・グローバル化した社会での生き方を考え、多面的なもの見方が必要であることを理解し、メディア・リテラシーについて理解と考察を深めます。 ・豊かな社会の背後にある問題を理解し、本当の豊かさとは何かという命題について考察を深めます。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
公民	政治・経済	3年	普通科文系	2

1. 学習の目標

- ① 現代の社会事象について、幅広い視点で理解・分析する力をつける。
- ② 上記の力を土台として、公民としての適切な判断力・行動力を身につける。
- ③ 入試問題への十分な対応力をつける。

2. 教科書

東京書籍 「政治・経済」

3. 副教材

東京書籍 「要点マスター 政治・経済 演習ノート」
 第一学習社 「新版 最新政治・経済資料集」

4. 授業の進め方

教科書準拠のワークノートと板書を併用しながら、授業を進めていく。また必要に応じて、内容を深めるため、特別に作成した資料プリント等も使用する。さらに、適宜、必要な演習を行い、入試問題への対応力を高める。加えて、定期的に小テストを実施して、実力の伸張をはかる。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ① 資料集の用語集部分を活用して、教科書に記載されている用語の意味を正確に理解するよう努める。
- ② 演習問題に対しては、解説などを利用して、完全に理解できるまで、徹底して学習し内容についての疑問が残らないようにしておく。
- ③ 出された課題プリントは、必ず期限内に解き、欠かさず提出する。
- ④ 毎日、短時間でも新聞やテレビのニュースを見る習慣をつける。
- ⑤ 政治・経済的な内容をテーマにしたNHKの特集番組等をできるだけ視聴するよう努める。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

- ① 中間考査・期末考査・小テストの成績をベースにして評価を行う。
- ② 提出物の状況、授業中の集中度、質問に対する応答の状態等を評価に加える。

7. その他の留意点

- ① 各節のまとめのための演習プリントを確実に学習すること。
- ② 重要箇所をマーキングするためのマーカーを準備する。
- ③ プリント類を整理して保管するためのファイルを準備する。

政治・経済 年間学習計画表（文系）

学期	月	学習項目 (単元)	学習内容および目標	評価の観点				評価方法
				関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解	
1 学期	4	第1章 現代の政治 1節 民主政治の基本原則 1 民主政治の成立 2 法の支配 3 基本的人権の確立	・民主政治の基本的な原理について、その成り立ちを歴史的な観点からとらえます。 ・世界の主な政治体制についてイギリスアメリカ合衆国などを比較しながら、理解します。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 1-1評価 中間考査
	5	4 現代の民主政治 5 世界のおもな政治体制 2節 日本国憲法の基本原則 1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義	・日本国憲法の制定過程や三大原理である国民主権、基本的人権の保障、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら捉えます。また、具体的な事例に即しながら、理解します。	○	○	○	○	
	6	3節 日本の政治機構 1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治	・国会、内閣、裁判所の三権の機能について、前節の理念との関係を踏まえて考察します。 ・地方自治の制度について、具体的な事例に即して理解します。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 1-1評価 期末考査
	7	4節 現代政治の特質と課題 1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加	・最近の選挙の動きに注目し、選挙制度について具体的に学習を展開し将来の有権者としての行動を考えます。	○	○	○	○	
		5節 現代の国際政治 1 国際関係と国際法 2 国際社会の組織化と変容 3 国際政治の動向 4 国際政治の課題 5 地球環境と資源・エネルギー問題 6 地球社会における日本の役割	・戦後の国際政治の変遷に触れながら、国際法や国際連合の組織としての機能などについて理解します。 ・国際政治の動向や特徴について、現在、何が争点になっているかなど、具体的な動きに注目し、国際政治への関心を高めます。	○	○	○	○	
	9	第2章 現代の経済 1節 現代の資本主義経済 1 資本主義体制の成立と発展 2 現代経済の特質	・現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯を経て成立しているのかを理解するとともに、資本主義経済の特徴についても捉えます。	○	○	○	○	
10	2節 現代経済のしくみ 1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 金融のしくみと機能 5 財政のしくみと機能	・経済主体間の結びつきに注意し、企業活動はどのようなものであるかを理解します。 ・市場メカニズムやその限界など、それらの特徴について理解します。	○	○	○	○		
2 学期	11	3節 日本経済の発展と産業構造の変化 1 経済再建から高度成長へ 2 オイル・ショック後の日本経済 3 日本経済の現状	・戦後の日本経済の歩みを振り返りながらも、現在、日本が直面している経済の諸課題について基本的な事項を中心に、その実態などを理解するとともに、問題点などについても考えます。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 1-1評価 期末考査
	12	4節 福祉社会と日本経済の課題 1 公害と環境保全 2 消費者問題 3 農業・食糧問題 4 中小企業の現状と改題 5 雇用と労働問題 6 社会保障と福祉	・今日の労働環境の変化にも触れ、労働基本権との関係を考えます。	○	○	○	○	
		5節 国民経済と国際経済 1 貿易と国際収支 2 経済対立と国際協調 3 発展途上国の経済 4 地域主義の動き 5 グローバル化する世界経済 第3章 現代社会の諸課題	・今日の貿易のしくみや、その決済など国際経済のしくみについて理解します。	○	○	○	○	
	1	共通テスト対策演習	・	○	○	○	○	
3 学期	1	共通テスト対策演習	・	○	○	○	○	授業態度 発問評価 1-1評価

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
公民	時事研究	3年	普通科文系	4

1. 学習の目標

- ①現代の社会事象について、幅広い視点で理解・分析する力をつける。
- ②上記の力を土台として、公民としての適切な判断力・行動力を身につける。
- ③入試問題への十分な対応力をつける。

2. 教科書

東京書籍「政治・経済」、日経HR「図解で分かる 時事重要テーマ100」

3. 副教材等

東京書籍「要点マスター 政治・経済 演習ノート」

4. 授業の進め方

資料プリントをもとに自分の考えをまとめ、文章に表現したり、発表を行うことで、公民科の既修事項に対する理解を深めるとともに、入試問題への対応力を高める。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ①資料を批判的に分析し、自分の考えをもつようにする。文章などに的確に表現し、相手に伝えることができるようにする。
- ②毎日、短時間でも新聞やテレビのニュースを見る習慣をつける。
- ③政治・経済的な内容をテーマにしたNHKの特集番組等をできるだけ視聴するよう努める。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

- ①中間考査・期末考査・課題などの成績をベースにして評価を行う。
- ②提出物の状態、授業中の集中度、質問に対する応答の状態を評価に加える。

7. その他の留意点

- ①プリント類を整理して保管するためのバインダーやファイルを準備する。

時事研究 年間学習計画表（文系）

学期	月	学習項目 (単元)	学習内容および目標	評価の観点				評価方法
				関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解	
第1学期	4	1 現代の政治 ①民主政治の基本原則	・「首相公選制」「疫病対策と基本的人権」「日本の防衛問題について」などの具体的な事例を探究することで、人権保障の歴史や、日本国憲法の基本理念、平和主義についての理解を深める。	○	○	○	○	授業態度 課題評価 中間考査
	5	②日本国憲法の基本原則						
	6	③日本の政治機構 ④現代政治の特質と課題	・「二大政党制について」「道州制について」「ネット選挙について」「成人年齢の引き下げについて」などの具体的な事例を探究することで、国会、内閣、裁判所の三権のはたらきについての理解を深める。	○	○	○	○	授業態度 課題評価 期末考査
7	⑤現代の国際政治	・「国際環境問題に対する日本の役割について」「難民問題について」「世界の領土問題について」などの具体的な事例を探究することで、その歴史的経緯を理解するとともに、今後の国際政治の動向について関心を高める。	○	○	○	○		
第2学期	9	2 現代の経済 ⑥現代の資本主義経済	・「経済発展と社会福祉の両立について」「企業の社会的責任について」「世界の税制について」などの具体的な事例を探究することで、資本主義社会における企業活動の実際や、政府が果たすべき役割について理解を深める。	○	○	○	○	授業態度 課題評価 中間考査
	10	⑦現代経済のしくみ						
	11	⑧日本経済の発展と産業構造の変化	・「バブル経済とその崩壊について」「近年の日本の金融政策について」「今後の年金制度について」「今後の農業政策について」「働き方改革について」などの具体的な事例を探究することで、日本経済の実態や問題点などを理解するとともに、解決策などについても考える。	○	○	○	○	授業態度 課題評価 期末考査
12	⑨福祉社会と日本経済の課題							
第3学期	1	⑩国民経済と国際経済	・「外国人労働者の問題について」「今後のEUについて」などの具体的な事例を探究することで、国際間の労働力移動や、地域主義の台頭など国際経済の動向について理解する。	○	○	○	○	授業態度 課題評価 学年末考査
2								

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
数 学	数学Ⅱ・B	3 年	普通科文系	3 + 2

1 学習の目標

2年次からの続きとして、数学Bの「数列」の学習を進める。基本的な等差、等比数列について理解を深め、その後発展的な内容である漸化式や数学的帰納法について学習し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力や、それらを活用する態度を育む。

さらに、2年次までに学習した数学Ⅰ・A、Ⅱ・Bの内容について総復習を行う。その学習を通して、さらなる知識の習得と技能の習熟を図るとともに問題解決力や思考力を養う。問題演習を行う中で、大学入試に対応できる能力を育む。

2 教科書

改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)

改訂版 高等学校 数学B (数研出版)

3 副教材等 (予定であり、追加・変更する場合もある)

改訂版 4プロセス 数学Ⅱ+B (数研出版)

河合塾 2022 マーク式総合問題集 数学Ⅰ・A (河合出版)

河合塾 2022 マーク式総合問題集 数学Ⅱ・B (河合出版) 他

4 授業の進め方

各クラスで一斉授業の形態で行う。

5 確かな学力を身につけるためのアドバイス

「家庭での問題演習」→「授業での理解」→「復習」のサイクルで取り組む。

Ⅰ・A、Ⅱ・Bの復習と入試問題を軸とした演習が主な内容であり、授業で取り上げる問題を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むことが必須である。また、理解した内容を類題等で復習をすると定着を図ることができる。

6 評価方法・考査・テスト・課題等

中間考査，期末考査，および長期休業明けに行われる課題考査の点数を基準とする。また，小テストや課題等の提出状況，授業態度等を加味し総合的に判断して評価する。

7 その他の留意点

県模試や対外模試に向けては，指示された問題やその都度与えられた問題集にしっかりと取り組むとともに，個人の進路にあわせて，過去の入試問題等に自発的に取り組むことが望ましい。

数学Ⅱ・B 年間学習計画表(普通科文系)

学期	月	テスト計画	単元および学習内容	評価の観点				評価方法
				関	見	技	知	
1 学 期	4	課題考査	第3章 数列 1節 等差数列と等比数列	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
	5	県模試(記) 中間考査	2節 いろいろな数列	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表 考査
	6	県模試(M)	3節 数学的帰納法	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
	7	期末考査 県模試(M) 外部模試(M)	数学ⅠAⅡB問題演習	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表 考査
	8	課題考査						
2 学 期	9	県模試(M)	数学ⅠAⅡB問題演習	○	○	○	○	考査・小テスト・発表
	10	全統模試(M) 中間考査						考査
	11	県模試(記) 全統プレ(M)	大学入学共通テスト対策	○	○	○	○	ノート・小テスト・発表
	12	期末考査 外部模試(M) プレテスト						考査
	1	プレテスト	大学入学共通テスト対策					
3 学 期	2	大学入学共通 テスト 前期試験	2次試験対策 特別講座					
	3	後期試験						

※評価の観点

〔関〕：関心・意欲・態度	〔見〕：数学的な見方や考え方	〔技〕：数学的な技能	〔知〕：知識・理解
考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
数 学	数学Ⅲ	3 年	普通科理系	7

1 学習の目標

数学Ⅲでは「複素数平面」「式と曲線」「関数」「極限」「微分法」「微分法の応用」「積分法とその応用」について学習する。その学習を通して数学的な考えを理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を目指す。また、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。さらに、大学入試に対応できる能力を身につける。

2 教科書

改訂版 高等学校 数学Ⅲ（数研出版）

3 副教材等

改訂版 4プロセス 数学Ⅲ （数研出版）

改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ（数研出版）

4 授業の進め方

各クラスで一斉授業の形態で行う。

5 確かな学力を身につけるためのアドバイス

「予習」→「授業」→「復習」のサイクルで取り組む。予習は教科書の内容に目を通し、疑問や質問事項をもって授業を受けると理解が深まる。復習は、授業で学習した内容の問題演習を必ず毎日行う。具体的には問題集（4プロセス）の中から、まず『A問題』をその日のうちに解き、土日や考査前に『B問題』や『応用問題』まで完成させる習慣をつける。

6 評価方法・考査・テスト・課題等

中間考査、期末考査、校内テスト、および長期休業明けに行われる課題考査の点数を基準とする。また、課題等の提出状況、授業態度等を加味し総合的に判断して評価する。

7 その他の留意点

県模試やその他のテストに向けては、指示された問題やその都度与えられた問題集にしっかりと取り組む。また、個人の進路にあわせて、過去の入試問題等に自発的に取り組むことが望ましい。

数学Ⅲ 年間学習計画表(理系)

学期	月	テスト計画	単元および学習内容	評価の観点				評価方法
				関	見	技	知	
1 学 期	4	課題考査	第3章 関数	○	○	○	○	考査 課題・ノート・小テスト・発表
			第4章 極限					
			第1節 数列の極限	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
			第2節 関数の極限	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
	5	県模試(記)	第5章 微分法					
			第1節 導関数	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
			第2節 いろいろな関数の導関数	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
		中間考査					考査	
	6	県模試(M)	第6章 微分法の応用					
			第1節 導関数の応用	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
			第2節 いろいろな応用	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
			第7章 積分法とその応用					
			第1節 不定積分	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
			第2節 定積分	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
			第3節 積分法の応用	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
	7	期末考査 県模試(M)						考査
2 学 期	8	外部模試(M) 課題考査						
	9	県模試(M)	第1章 複素数平面	○	○	○	○	課題・ノート・小テスト・発表
	10	全統模試(M) 中間考査	大学入学共通テスト・2次試験対策					考査
	11	県模試(記) 全統ブレ(M)						
	12	期末考査 外部模試(M) プレテスト						考査
3 学 期	1	プレテスト	大学入学共通テスト対策					
	2	大学入学共通テスト						
	3	前期試験 後期試験	2次試験対策 特別講座					

※評価の観点

〔関〕：関心・意欲・態度	〔見〕：数学的な見方や考え方	〔技〕：数学的な技能	〔知〕：知識・理解
平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	物理	3年	普通科理系	5

1. 学習の目標

3年物理では2年次に履修した物理の内容をもとに、さらに発展させた内容を履修します。物理では、次の3点を目標に学習をすすめます。

- ① 基本的な概念や原理・法則を理解させる。
- ② 物理的な事物・事象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。
- ③ 科学的な自然観を育成する。

2. 教科書

総合物理² (数研出版)

3. 副教材等

新課程 実践アクセス総合物理 (浜島書店)

4. 授業の進め方

基本的には教科書に沿った内容です。授業中の板書をノートに取り、講義の内容をしっかりと理解してください。単元のまとめや思考力を要する内容は演習を行いながら進めていきます。また、実験、観察を重視しますので授業を欠席することがないようにしてください。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・授業で学習するさまざまな物理現象を、身近な事柄に結びつけて考えるとさらに理解が進みます。
- ・ノートは、板書をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入したり、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしたりしておくことで学習に広がりが生まれます。
- ・問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図ると良いでしょう。予習と復習が基本です。予習をし、今日学習する内容では「何が分かっている、何が分からないのか」ということを準備して授業に臨むことが大切です。また、知識を積み上げていくため、必ず復習をして語句や定義、法則や考え方などは授業があった日に理解をしてください。また、学習の定着のために問題集を利用して、たえず知識の確認をしていくことが大切です。宿題に関しては、指示された内容は必ず期日までに仕上げるのが大切です。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート・授業で使用するプリントなど課題の提出状況、授業中のノート、定期考査で評価します。

7. その他の留意点

よく考えるためには、よく聞くことも大切です。授業を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり質問することを怠らないようにしましょう。また、問題を解くことで弱点や課題が見つかります。学ぶことはまねることから始まります。正しい考え方をしっかりと自分のものとしてください。そのためにも、新しいことを学んだ後は必ず問題演習を通して知識の整理を行ってください。

物理 年間学習計画表 (理系)

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法							
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解								
1 学期	4	第4編 電気と磁気 第1章 電場	<p>静電気のはたらきについて定性的・定量的に検討を加え、静電気に関する理解を深める。電場や電位の概念を理解し、電気的な空間内での荷電粒子の運動を学習する。コンデンサーの仕組みを理解し、コンデンサーを含む回路の計算について学習する。</p> <p>電流によって運ばれたエネルギーを、光や音、熱、動力に変換する技術の基礎になる、電流のはたらきについて学習する。</p> <p>磁場の性質を理解し、電流がつくる磁界、電流が磁界から受ける力について学習する。また、ローレンツ力を受けた荷電粒子の運動についても学習する。</p> <p>電磁誘導や自己誘導、相互誘導の現象について理解する。また、交流の発生の仕組み、交流回路の計算、電磁波などについても学習する。</p>	○	○	○	○	授業態度, 発問評価レポート, 定期考査							
	5	1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー													
	6	第2章 電流							1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体						
		第3章 電流と磁場							1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力						
	7	第4章 電磁誘導と電磁波							1. 電磁誘導の法則 2. 交流の発生 3. 自己誘導と相互誘導 4. 交流回路 5. 電磁波						
	2 学期	9							第5編 原子 第1章 電子と光	<p>電子の電荷と質量、電子や光が粒子性と波動性の両方の性質をもつことを理解し、粒子と波動の二重性を示す現象について学習する。</p> <p>原子の構造を量子条件および振動数条件を用いて理解する。また、原子核の構成等について理解し、核反応や核エネルギーについて学習する。素粒子についても学習する。</p> <p>物理学の発展と成果について理解する。</p>	○	○	○	○	授業態度, 発問評価レポート, 定期考査
		10							1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性						
11		第2章 原子と原子核	1. 原子の構造とエネルギー準位												
12		2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子													
3 学期	1	「物理」の内容の問題演習	センター試験等にむけての問題演習を行います。	○	○	○	○	授業態度, 発問評価レポート, 定期考査							
	2														
	3														

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	化学基礎	3年	普通科文系	2

1. 学習の目標

私たちは多種多様の物質に囲まれ、物質の中で生きています。化学は自然科学の一部門で、物質の性質、反応性、構造を調べることにより、物質に関する原理、法則を見いだしていく学問です。化学基礎では身の回りの物質や反応を通して、次の3点を目標に化学の基礎的な内容を学習します。

- ① 中学時の学習内容をもとに、化学の基本的な事項を理解します。
- ② 化学的な事象・現象についての実験、観察を行い、自然に対する関心や探究心を高めます。
- ③ 化学的に探究する能力と態度を育て、基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を育てます。

2. 教科書

高等学校 改訂 新化学基礎（第一学習社）

3. 副教材等

インプレス化学基礎ノート（浜島書店）

4. 授業の進め方

基本的には教科書に沿った内容を学習していきます。授業中の板書をノートに取り、講義の内容をしっかりと理解してください。単元のまとめや思考力を要する内容は、プリントや副教材を使いながら演習を行いながら進めていきます。また、実験、観察を重視しますので授業を欠席することがないようにしてください。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

予習と復習が基本です。予習をし、今日学習する内容では「何が分かっている、何が分からないのか」ということを準備して授業に臨むことが大切です。また、知識を積み上げていくため、必ず復習をして語句や定義、法則や考え方などは授業があった日に理解をしてください。また、学習の定着のために参考書や問題集を利用して、たえず知識の確認をしていくことが大切です。宿題に関しては、指示された内容は必ず期日までに仕上げるのが大切です。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

授業への意欲や態度、そして学んで得た学力など総合的な視点に立って評価していきます。したがって考査の得点をはじめ、授業中の小テストの得点、問題集や授業中のノートや実験レポート等の提出物、学習や実験、観察への主体的な取り組み方で評価します。

7. その他の留意点

よく考えるためには、よく聞くことも大切です。授業を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり質問することを怠らないようにしましょう。また、問題を解くことで弱点や課題が見つかります。学ぶことはまねることから始まります。正しい考え方をしっかりと自分のものとしてください。そのためにも、新しいことを学んだ後は必ず問題演習を通して知識の整理を行ってください。

実験や観察では指示に従い、注意事項を必ず守ってください。化学の実験ではちょっとした不注意が思わぬ事故に繋がる場合があります。安全に実験が行えるように、一人ひとりが気をつけてください。

化学基礎 年間学習計画表 (文系)

学期	月	単元	内容	評価の観点				評価方法
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解	
1 学 期	4	(3)酸化還元反応	酸化反応・還元反応の定義や酸化剤・還元剤の半反応式について学習します。定義をもとに酸化還元反応の量的関係や酸化数について学習します。過酸化水素などの身の回りの物質を通して酸化還元反応についての理解を深めます。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	5	① 酸化と還元						
	6	② 酸化数と酸化還元反応						
	7	③ 金属のイオン化傾向 ④ 酸化還元反応の利用						
2 学 期	9	1 物質の構成 (1)物質とその構成要素	主に共通テスト試験の問題演習をしながら、各分野別に復習をしていきます。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
		① 物質の成分と分離						
		② 原子のなりたち						
		③ 原子に電子配置						
	10	(2)物質と化学結合						
	① イオンからできる物質							
	② 分子からできる物質							
	③ 金属結晶							
	11	2 物質の変化 (1)物質量と化学変化						
	① 原子量・分子量・式量							
	② 物質量							
	③ 溶解と濃度							
	12	(2)酸塩基とその反応						
	① 酸塩基の強弱							
	② 水素イオン指数 pH							
	③ 中和と塩 ④ 中和滴定							
3 学 期	1	全範囲	大学入学共通テスト演習	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	2							
	3							

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	化学	3年	普通科理系	5

1. 学習の目標

化学は自然科学の一部門で、物質の性質、反応性、構造を調べることにより、物質に関する原理、法則を見いだしていく学問です。化学では、化学基礎で学んだことの発展内容や、無機物質、有機化合物など、多くの物質について学びます。学習の目標は以下のとおりです。

- ① 物質の状態変化や状態間の平衡について、化学結合やエネルギーと関連付けて理解します。
- ② 反応速度や化学平衡に関する概念や法則を理解します。
- ③ 無機物質の性質や反応について整理し、理解します。
- ④ 有機化合物の性質や反応について整理し、理解します。

2. 教科書

化学 改訂版（啓林館）

3. 副教材等

四訂版 サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）
 セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）
 インプレス化学ノート（浜島書店）

4. 授業の進め方

基本的には教科書の内容に沿って学習しますが、資料などを用いて発展的な内容も扱います。また、「化学基礎」と重複する内容については、まとめて「化学基礎」で学習します。

思考力を要する内容は演習を行いながら進めていきます。実験、観察を重視しますので授業を欠席することがないようにしてください。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

予習と復習が基本です。予習をし、今日学習する内容で「何が分かっていて、何が分からないのか」ということを明確にして授業に臨めば、理解度は確実に向上します。また、知識を積み上げていくためには、試験前に詰め込むのではなく、計画的に復習していくことが最も大切です。その際、理解の定着のためにノートや問題集等を利用して、たえず知識の確認をしていくことが必要です。

授業ではノートをとることも大切ですが、まずしっかり考え、内容を理解するようにしましょう。

宿題は学習したことをしっかりと知識として定着させるためのものです。提出することが目的ではありません。わからない問題はしっかり復習し、じっくり考える習慣を身につけましょう。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

授業への意欲や態度、そして学んで得た学力や科学的な見方・考え方が身につけているかななどを総合的な視点に立って評価します。考査の成績をはじめ、小テスト、実験レポート等の提出物、授業や実験・観察への主体的な取り組み方などをもとに判断します。

7. その他の留意点

授業内容を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり質問することを怠らないようにしましょう。また、問題を解くことで弱点や課題が見つかります。そのためにも、新しいことを学んだ後は、必ず問題演習を通して知識の整理を行ってください。そして、理解した内容を教えあうなどしてアウトプットすることを心がけてください。

実験や観察では指示に従い、注意事項を必ず守ってください。化学の実験ではちょっとした不注意が思わぬ事故に繋がる場合があります。安全に実験が行えるように、一人ひとりが気をつけてください。

化学 年間学習計画表(普通科理系)

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解	
1 学期	4	第2編 物質の変化 第4章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	可逆反応においては平衡状態が存在すること、その状態は平衡定数で表されることを学び、それらをもとに質量作用の法則を理解する。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	5	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 2 水素・希ガス・ハロゲン元素 3 酸素・硫黄・窒素・リン・炭素・ケイ素	元素を周期表に基づいて分類し、それにあわせて単体や化合物の性質を広く学ぶ。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
		第2章 金属元素(I) 1 アルカリ金属元素 2 2族元素 3 アルミニウム・亜鉛 4 スズ・鉛	金属元素は非金属元素とは大きく性質が異なる点に着目して学習する。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
		第3章 金属元素(II) 1 遷移元素の特色 2 鉄 3 銅 4 銀・金 5 クロム 6 マンガン 7 金属イオンの分離	身近な遷移元素を中心に、単体や化合物、イオンなど特徴的な性質を学ぶ。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	6	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分析	有機化合物の特徴や分類法、成分元素の検出、そして実験から分子式を求める方法などを学ぶ。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
		第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素	命名法、性質、単結合・二重結合・三重結合など分子の構造に基づく有機化合物の考え方を把握する。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	7							
2 学期	9	第3章 アルコールと関連物質 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 脂肪族カルボン酸と酸無水物 4 エステルと油脂	酸素を含む有機化合物の代表として、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステルなどについて、特徴的な性質を学ぶ。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
		第4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類 3 芳香族カルボン酸 4 芳香族アミンとアゾ化合物 5 有機化合物の分離	ニトロ化、ハロゲン化、スルホン化など主要な反応と、それらによりつくられる代表的な化合物の性質を学ぶ。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	10	第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 1 天然有機化合物の種類 2 単糖類・二糖類 3 アミノ酸 第2章 天然高分子化合物 1 多糖類 2 タンパク質・核酸	天然有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
		第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1 高分子化合物の構造と性質 第2章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 合成樹脂 3 高分子化合物と人間生活 4 天然ゴムと合成ゴム	合成高分子化合物の組成、構造、性質について理解する。また、合成繊維と合成樹脂の組成や構造がその特性とどのように関連しているのかを理解し、化学的理解を深める。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	11	復習と問題演習	問題演習を通して化学の理解を深める。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査
	12							
3 学期	1	復習と問題演習	問題演習を通して化学の理解を深める。	○	○	○	○	授業態度 発問評価 レポート 定期考査

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	生物基礎	3年	普通科文系	2

1. 学習の目標

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
- (2) 目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
- (3) 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方ができるようになる。

2. 教科書

高等学校 改訂 生物基礎 (東京書籍)

3. 副教材等

改訂版スクエア最新図説生物 neo (第一学習社)
 コンセプトノート生物基礎 (浜島書店)
 生物基礎の必修整理ノート (文英堂)
 大学入学共通テスト 生物基礎 単元別問題集 (駿台文庫)
 共通テスト対策 実力養成 直前演習 生物基礎 (ラーンズ)

4. 授業の進め方

教科書の内容に沿って授業を進めます。教科書の中にある発展的な内容も取り扱います。複数の単元にまたがった事象などは横断的に学習します。単元のまとめや思考力を要する内容は演習を行いながら進めていきますので、事前の予習を欠かさずに授業に臨むようにしましょう。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- (1) 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけて考えましょう。
- (2) 板書事項をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入し、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしておき、学習内容をより深いものとしましょう。
- (3) 観察・実験には関心・意欲を持って取り組み、実験の技能を習得しましょう。
- (4) 問題集を自主的・積極的に解き、また、模擬試験も見直し、学習内容の定着を図りましょう。
- (5) 課題等は、期日を守って提出しましょう。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

定期考査の成績を中心に、授業ノートやプリント・問題集等の課題提出状況、学習活動への取り組み具合などを総合的に判断して評価します。

7. その他の留意点

よく考えるためには、何よりもよく聞くことが大切です。授業内容をよりよく理解するために、疑問に思ったことを放置せず、教科書の精読はもちろん、指導者や友人に聞くなり、自分で調べるなりして解決を図りましょう。また、演習問題をこなすことで自身の弱点や新たな疑問点が鮮明になります。授業を通して考察力・思考力を育むと同時に、1年次に曖昧のままにしておいた単元や3年になって新しく得た知識を、問題演習を通して、しっかりと自分のものにしましょう。

生物基礎 年間学習計画表（文系）

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解	
1 学期	4	第1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 地球上に生息する多様な生物は基本的には共通する構造や仕組みを持つことを復習して理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	5	2章 生命活動とエネルギー		○	○	○	○	
	6	第2編 遺伝子とその働き 1章 生物と遺伝子	<ul style="list-style-type: none"> 細胞には、酵素が関わる光合成や呼吸というエネルギー代謝が存在することを復習して理解を深める。 遺伝情報はDNA と呼ばれる核酸分子が持っていることを復習して理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
		7		2章 遺伝情報の分配	○	○	○	
	7	3章 遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> DNA は複製され細胞分裂で母細胞から娘細胞に伝達されることを復習して理解を深める。 DNA をもとに、生命現象を支えるタンパク質が作られることを復習して理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
		7		第3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境	○	○	○	
2 学期	9	2章 体内環境の調節	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経やホルモンによって体内環境が一定に保たれる仕組みを復習して理解を深める。 脊椎動物に備わる体内環境に侵入してきた微生物などを排除する免疫のしくみについて復習して理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	10	3章 免疫		○	○	○	○	
	11	第4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と分布	<ul style="list-style-type: none"> 地球上には気候に対応した様々なバイオームがあることを復習して理解を深める。 生態系のバランスを保つことは人間生活にとって重要であることを復習して理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
		12		2章 生態系とその保全	○	○	○	
3 学期	1 2	総合分野学習	<ul style="list-style-type: none"> 各編の相互関連分野について学習し理解を深める 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	生物	3年	普通科理系	5

1. 学習の目標

- (1) 生物や生物現象に対する探究心を高める。
- (2) 目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
- (3) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を身に付ける。

2. 教科書

スタンダード生物 (東京書籍)

3. 副教材等

改訂レッツトライノート 生物 Vol.2 発生・環境応答編 (東京書籍)
改訂レッツトライノート 生物 Vol.3 生態・進化と系統編 (東京書籍)
改訂版リードα 生物 (数研出版)
改訂版スクエア最新図説生物 neo (第一学習社)
共通テスト対策 実力完成 直前演習 生物 (ラーズ)

4. 授業の進め方

教科書の内容に沿って、基礎から発展まで幅広く内容を取り扱います。複数の単元にまたがった事象などは、横断的に学習します。また、単元のまとめや思考力を要する内容は、個別またはグループによる演習を行いながら進めていきます。単元の内容により、観察・実験を実施します。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- (1) 授業で学習するさまざまな生物現象を、身近な事柄に結びつけて考えましょう。
- (2) 板書事項をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入し、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしておき、学習内容を広げましょう。
- (3) 観察・実験には関心・意欲を持って取り組み、実験技能の習得と向上に努めましょう。
- (4) 問題集を積極的に解いて、学習内容の定着を図りましょう。
- (5) 課題は、期日厳守で提出しましょう。
- (6) 大学等で開催される実験講座等に意欲的に参加し、生命科学への知見を深めましょう。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

定期考査の成績を中心に、授業ノートやプリント・問題演習等の課題提出状況、実験レポートの内容、学習活動への取り組み具合などを総合的に判断して評価します。

7. その他の留意点

よく考えるためには、何よりもよく聞くことも大切です。授業内容をよりよく理解するために、疑問に思ったことを放置せず、教科書の精読はもちろん、指導者や友人に聞くなり、自分で調べるなりして解決を図りましょう。また、問題演習を多くこなすことで自身の弱点や新たな疑問点が鮮明になります。学ぶことはまねることから始まります。正しい知識と考察力・思考力を、授業や演習を通してしっかりと身につけてください。そのためにも、新しいことを学んだ後は必ず問題演習に取り組み、知識の定着と整理を図るようにしましょう。

生物 年間学習計画表（理系）

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解	
1 学期	4	第4編 生物の環境応答 3章 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> ・動きまわることのできない植物が環境の変化に対応している様子を学び、そのしくみについて植物の一種をたどりながら学習する。 ・生物を集団としてとらえ、生物の集団の種内・種間での関係や、環境からの影響について学習する。 ・生態系の中での有機物の生産やエネルギーの流れに対して生物がどのようにかかわっているかを学習する。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	5	第5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学		○	○	○	○	
	6	2章 個体群と生物群集		○	○	○	○	
	7	3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ		○	○	○	○	
2 学期	9	4章 生態系と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性とその意味について学習するとともに、生態系の中での人間と生物とのかかわりについて考察する。 ・地球上で生命が誕生してから現在までの生物の変遷を通して、生物の起源と進化の歴史について学習する。 ・進化のしくみについて学習する。 ・地球に現存する生物の進化の道筋をたどり、それぞれの生物どうしの関係を学習する。 ・これまで学んだ内容について、相互に関連している分野についてその関連を学習し、生物学に関する理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	10	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷		○	○	○	○	
		2章 進化のしくみ		○	○	○	○	
		3章 生物の系統		○	○	○	○	
	11 12	総合分野の学習		○	○	○	○	
3 学期	1 2	総合分野の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期末からの学習を継続する 	○	○		○	授業態度, 発問評価

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
理科	地学基礎	3年	普通科文系	2

1. 学習の目標

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。
- (2) 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。
- (3) 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

2. 教科書

改訂地学基礎（東京書籍）

3. 副教材等

ニューサポート改訂地学基礎（東京書籍）

ビーライン地学基礎（第一学習社）

きめる！センター地学基礎（学研）

進研センター試験直前演習地学基礎（ラーズ）

4. 授業の進め方

教科書の内容に沿って授業を進めます。教科書の中にある発展的な内容も取り扱います。複数の単元にまたがった事象などは、まとめて学習します。単元のまとめや思考力を要する内容は演習を行いながら進めていきます。また、観察・実験を重視しますので授業を欠席することがないようにしてください。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- (1) 授業で学習するさまざまな生物現象を、身近な事柄に結びつけて考えよう。
- (2) 板書事項をそのまま写すだけでなく、自分なりに分かりやすく工夫して記入し、疑問に感じた点や追求したい事柄をメモしておき、学習内容を広げよう。
- (3) 観察・実験には関心・意欲を持って取り組み、実験の技能を習得しよう。
- (4) 問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図ろう。
- (5) 課された課題は、期日までに提出しよう。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

定期考査の成績、授業で使用するプリント等の課題、授業ノート、学習活動への参加状況を総合的に判断して評価します。

7. その他の留意点

よく考えるためには、よく聞くことも大切です。授業を理解するためには分からないことを放置せず、自分で調べるなり質問することを怠らないようにしましょう。また、問題を解くことで弱点や課題が見つかります。学ぶことはまねることから始まります。正しい考え方をしっかりと自分のものとしてください。そのためにも、新しいことを学んだ後は必ず問題演習を通して知識の整理を行ってください。

地学基礎 年間学習計画表（文系）

学期	月	単 元	内 容	評価の観点				評価方法
				関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	観察・ 実験の 技能	知識・ 理解	
1 学期	4	第4編 私たちの空と海・ 地球のこれから 1章 大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> ・大気と海洋の構造、地球の熱収支とそれに伴って起こる諸現象について理解する。 ・日本の自然環境の特徴から、それがもたらす恩恵と、自然災害、防災について過去の災害例を通して理解する。 ・自然現象を時間的・空間的スケールでとらえ、地球が大気圏などからなる地球システムとみなすことができることを理解する。 	○	○	○	○	
	5	2章 日本の自然の恵みと 防災		○	○	○	○	
	6			○	○	○	○	
	7	終1章 地球環境の考え方		○	○	○	○	
2 学期	9	終2章 自然環境の変動	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境には変動性があることを理解する。 ・地球環境的視点から、世界の取り組みを理解し、自分たちにできることはどのようなことがあるかを考えることができるようになる。 ・地学基礎の総合的な内容について学習し理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査 授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	10	終3章 これからの地球環境		○	○	○	○	
	11	地学基礎総合復習		○	○	○	○	授業態度, 発問評価 レポート, 定期考査
	12			○	○	○	○	
3 学期	1 2 3	地学基礎総合復習	<ul style="list-style-type: none"> ・地学基礎の総合的な内容について学習し, 理解を深める。 	○	○	○	○	授業態度, 発問評価

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
保健体育	体育	3	普通科	3

1. 学習の目標

体育の授業では、「体力の向上を図り、心身ともに調和のとれた発達を目指すとともに、自主的な活動を促し、運動の生活化へと発展させる」を目標としています。

誰でも思いきり身体を動かした後では、気分が爽快になるものです。自ら積極的に身体を動かすことで、生涯にわたって運動に親しもうとする習慣を育成し、心身の健康を保持増進するための実践力・体力を養うことを目指して、体育の授業を行います。

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たすなどの意欲を育てます。

2. 授業の内容・進め方

ランニング・準備体操・補強運動のあと、整列をして挨拶。その後、授業の内容に入ります。3年生では、1・2年生で習得した基礎的な技術・技能を十分に活用し、実践形式の活動を中心に授業を行います。生涯スポーツを見据えて卒業後も運動を楽しむ姿勢を養っていきます。

3. 履修上の注意

○みんなで協力し授業を進めるよう心がける。

○競技のルールをしっかりと守り、工夫を凝らしてゲームを進める。

4. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、授業に対する取り組み（関心・意欲・態度）と、実践形式の活動での総合的な運動技能，チーム（グループ）での活動状況，ゲーム実施における知識・理解等を総合的に判断して評価します。

個人の取り組みだけではなく、集団の中で自身の役割を全うし、他者との対話，協力をしながら生涯スポーツへの理解を深めることが重要です。

5. その他の留意点

欠課時数が実施した授業時数の1／3を上回る場合は、欠点となります。

体育 年間学習計画表

学期	男子		女子	
1	球技選択 (1種目) ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー	陸上	球技選択 (1種目) ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー	陸上
		体育理論		体育理論
2	球技選択 (1種目) ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー	卓球/ バドミントン	バドミントン	卓球
			卓球	
3	体づくり		体づくり	球技選択 ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール ・サッカー

種目	学習内容	評価方法	評価の観点
体育理論	各運動種目の特徴や歴史	受講状況観察 チェックシート	関心・意欲・態度・知識
	ライフスタイルとスポーツについて		
	ルール等の理解		
陸上	短距離	受講状況観察・測定	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	混成		
	リレー		
	体力テスト		
サッカー	キック, ボールコントロール, ヘディング, シュート	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	ルールと審判法		
	ゲーム		
バスケットボール	パス, ドリブル シュート, フェイント	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	3対3 ハーフコート		
	ゲーム		
バレーボール	パス(オーバーパス, アンダーパス), トス, スパイク サービス(アンダー, フローター等)	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	チームフォーメーションとルール		
	三段攻撃を意識したゲーム		
ソフトボール	フリーバッティング ノック	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	ゲーム		
バドミントン	ラケットワーク サービス フライト(ドライブ, ハイクリア, ドロップ, ヘアピン, スマッシュ)	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	フライトの打ち分け		
	ダブルスのゲーム		
卓球	サービス, フォアハンドロング, スマッシュ, バックハンドショート	受講状況観察 技能テスト	技能・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断
	ゲーム		
体づくり	体ほぐしの運動 体力を高める運動	受講状況観察	運動・関心・意欲・態度 ・知識・思考・判断

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
英語	コミュニケーション英語Ⅲ	3年	普通科	文系4 理系4

1. 学習の目標

- ・説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。
- ・事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。
- ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

2. 教科書

Revised ELEMENT English CommunicationⅢ（啓林館）

3. 副教材等

「なし」

4. 授業の進め方

原則として英語で授業を進める。授業では、コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする姿勢が求められる。英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できること、また、その情報や自身の経験をもとに英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えられることが目標である。そのため、評価はペーパーテストのみならず、授業中の言語活動に対する態度や、自宅学習課題の取り組み方も加味される。授業においては、英語を積極的に「使う」姿勢が求められる。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

授業は英語で進められるので、辞書を使って新出語句を事前に学習しておくとうい。また、授業で扱う英文の和訳をすることも効果的である。

授業中は言語活動に積極的に取り組み、英語を多く使うようにする。積極的に声を出して、繰り返し単語の発音や音読の練習をする。授業で用いたワークシートなどはきちんと保管し、復習に活用する。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、授業中の言語活動への取り組み方、各定期考査の成績、ノート・プリントなどの提出物、小テストの成績を総合的に評価する。

7. その他の留意点

- ・辞書を必ず用意する。
- ・授業で扱う範囲の予習は最低限行って授業に臨む。
- ・提出物は必ず期限を守る。

コミュニケーション英語Ⅲ 年間学習計画表

月	進度 (項目)	指導内容	評価方法	評価の観点
4	Lesson 1 Lies, Damned Lies, and Statistics	<題材内容> ・統計がどのように嘘をつくかについて理解する。 ・折れ線グラフを使ったデータの見え方の違いを理解する。 ・統計を利用する際に筆者と読者が気をつけることについて理解する。 ・なぜ誤解を生むような統計データが使用されるのか、またそれをどのように見抜くかについて話し合う。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、中間考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
5	Lesson 4 The Truth about Grit	<題材内容> ・ニュートンが万有引力の概念を思いついた逸話の真実を理解する。 ・心理学者が気骨について研究し始めた経緯を理解する。 ・気骨に対するよりよい理解が何を可能にするかを理解する。 ・気骨を鍛える方法について話し合う。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、中間考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
	Lesson 6 The Mpemba Effect	<題材内容> ・ムペンバが発見した現象について理解する。 ・発見を否定されたときにムペンバが何をしたかを理解する。 ・「ムペンバ効果」をめぐる議論について理解する。 ・子どものころに答えが見つからなかった問いについて話し合う。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、期末考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
6	Lesson 8 A Small Crime	<題材内容> ・主人公がしかられることになった経緯を理解する。 ・主人公が部屋で考えていたことを理解する。 ・主人公の父親が主人公に言いたかったことを理解する。 ・落書きは芸術か犯罪かについて自分の意見をまとめ、市長に電子メールを書く。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、期末考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
7	Lesson 2 Language Extinction	<題材内容> ・何が言語を消滅させるのかを理解する。 ・言語が消滅するときに私たちが失うものは何かを理解する。 ・世界の言語を守るためにどのような取り組みが行われているかを理解する。 ・日本で英語を話す人々が増えれば、日本語も消滅すると思うかについて話し合う。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、期末考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
9	Lesson 5 A Class from Stanford University	<題材内容> ・筆者が授業で出した課題がどのようなものだったかを理解する。 ・それぞれのチームが課題にどのように取り組んだかを理解する。 ・この課題から得られる教訓を理解する。 ・自分がこの授業を受ける生徒だったら何をするかについて話し合う。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、中間考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
10	Lesson 7 Invisible Gorilla	<題材内容> ・ゴリラ実験がどのように行われ、どのような結果が出たかについて理解する。 ・ゴリラ実験によってわかったことと、それが何を示しているかを理解する。 ・「非注意性盲目」がだれに起こるか、「注意の錯覚」がなぜ起こるかを理解する。 ・目立つものを見逃した経験について話し合う。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、中間考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
	Lesson 9 Praying Hands	<題材内容> ・アルプレヒトとアルバートがどのような約束をしたかを理解する。 ・アルプレヒトに学校に行くことを勧められたアルバートが泣いた理由を理解する。 ・「祈りの手」を見たときに、筆者が読者に思い出してほしいことを理解する。 ・アルプレヒトの気持ちを想像してアルバートに手紙を書く。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、期末考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
11	Lesson 3 Environment or Orangutans?	<題材内容> ・オランウータンが絶滅の危機に瀕している理由を理解する。 ・ヤシ油の人気の再燃している理由を理解する。 ・ヤシ油の人気のオランウータンにおよぼす影響を理解する。 ・環境と経済のためにヤシの木を植えるべきだという意見に対する自分の考えを書く。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、期末考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
12	Lesson 10 All the Good Things	<題材内容> ・マークに関する筆者の思い出を理解する。 ・クラスの雰囲気が悪くなったときに筆者がしたこと、それがどのような効果をあげたかを理解する。 ・マークの葬式で筆者が知ったことを理解する。 ・教師のひとりに感謝の手紙を書く。	授業に対する意欲 発表 課題等の提出 小テスト、学年末考査	関心意欲態度 表現の能力 理解の能力 知識理解
1				

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
英語	英語表現Ⅱ	3年	普通科	文系3 理系2

1. 学習の目標

英語を使って、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。具体的な言語活動は次の通り。

- ・ 与えられたトピックについて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。
- ・ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。
- ・ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。
- ・ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。

2. 教科書

Vision Quest English Expression II Ace (啓林館)

3. 副教材等

Vision Quest English Expression II Ace WORKBOOK (啓林館)

4. 授業の進め方

授業では、コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする姿勢が求められる。英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できること、また、その情報や自身の経験をもとに英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えられることが目標である。そのため、評価はペーパーテストのみならず、授業中の言語活動に対する態度や、自宅学習課題の取り組み方も加味される。授業においては、英語を積極的に「使う」姿勢が求められる。

5. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

授業は日本語・英語の両方で進められるので、辞書を使って新出語句を事前に学習しておくといよい。

Practiceの問題は授業前に必ず自分で解いておく。

授業中は基本的な文法項目を復習し、いくつかのパターンの問題を解きながら、基本的な文法を表現活動で使えるようにする。最後に、与えられたトピックについて、自分の考えや意見を英語でまとめることができるようにする。その中で習得した表現を使うことができるようにする。

6. 評価方法・考査・テスト・課題等

評価は、授業中の言語活動への取り組み方、各定期考査の成績、ノート・プリントなどの提出物、小テストの成績を総合的に評価する。

7. その他の留意点

- ・ 辞書を必ず用意する。
- ・ 授業で扱う範囲の予習をして授業に臨む。
- ・ 提出物は必ず期限を守る。

英語表現Ⅱ 年間学習計画表

月	課	学習内容	評価方法	評価の観点
4	Lesson 18	原級／比較級	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，中間考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
5	Lesson 19	最上級／最上級の意味を表す表現	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，中間考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
6	Lesson 20	no＋名詞，no-で始まる代名詞／部分否定／準否定	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，期末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
	Part 2 Lesson 1, 2	パラグラフの構成/ 列挙・順序	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，期末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
7	Lesson 3	例示・追加	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，期末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
	Lesson 4	比較・対照	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，期末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
9	Lesson 5	原因・理由・結果	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，中間考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
	Lesson 6,7	要点・要約	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，中間考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
10	Part 3 Lesson 1 (Presentation)	プレゼンテーション： ブレインストーミング／資料を探す／ アウトラインの作成 プレゼンテーションの原稿／表現 プレゼンテーションの準備／実施 プレゼンテーションの質疑応答／発表者の評価	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，中間考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
11	Lesson 2 (Discussion)	ディスカッション： ディスカッションの進め方／例 ディスカッションに役立つ表現／評価	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，期末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
12	Lesson 3 (Debate)	ディベート： ディベートの進め方 ディベートの準備 ディベートを行う上での注意点／判定／表現	授業中の活動，発表 課題の提出，小テスト，期末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解
1	自主教材	自由英作文演習	授業中の活動，発表，課題の提出 小テスト，学年末考査	関心意欲態度，表現の能力，理解の能力，知識理解

教科名	科目名	履修学年	対象学科	単位数
総合的な探究の時間	IPT (Intellectual Power Training)	3年	普通科	1

1. 学習の目標

- 「自分の考えを適切に伝えられる力・主張できる力」の育成
 - ・自分の考えをまとめ、相手に的確に主張する能力を高める。
 - ・根拠を示しながら、論理的に自分の意見を「表現する」力を取得する。
- 「他者を尊重し協力し合って、物事に取り組む力」の育成
 - ・自己や他者についての考えを深め、共感する心を養う。
 - ・他者の意見に傾聴し、自身の考えの主張の中に反映させる力をつける。
- 「課題を探究し、解決に向けたプロセスを考える力」の育成
 - ・情報を収集・活用しながら、自らの課題を探究し、解決策について具体的に考察する。
 - ・社会の問題やその対策について系統的に学び、小論文への活用や、さらには、混迷する社会で主体的に生きる力を身につける。
- 「自ら考えて行動する力・主体性・自立心」の育成
 - ・課題探究をとおして、自身の適性を踏まえた進路について考える。
 - ・PortfolioをとおしたPDCAサイクルの定着により、メタ認知力を強化する。

2. 教科書・副教材等

教科書はありません。Google Classroom およびテキスト教材・プリント資料等を適宜使用します。

3. 授業の進め方

金曜日の7限目に実施します。

年間計画に沿って、担任および副担任の連携指導により展開されます。

4. 確かな学力を身につけるためのアドバイス

- ・活動の目標を理解し、積極的に取り組みましょう。〔主体性〕
- ・日頃から社会情勢やその変化に関心を持ちましょう。また、関心のあることは、フィールドワークやWeb検索を有効に活用しましょう。〔情報の収集〕
- ・課題探究を「論文」にしましょう。また、自身の活動を履歴書として綴りましょう〔表現力〕
- ・他者や識者の意見にしっかり耳を傾けつつ、自身の考えを主張しましょう。〔傾聴と主張〕
- ・グループで活動する際には、メンバーと協力しあいましょう。〔協働〕

5. 評価方法・考査・テスト・課題等

テストは実施しません。通知票にも成績は出ませんが、それだけが評価ではありません。IPTは主に学期末の自己評価によって行われ、Google Classroom上の「ポートフォリオ」や「活動報告書」、または「成果物(レポート)」として残すこととなります。これらは、みなさん自身の成長の軌跡となるものです。自らを高めるために、活動に真剣に臨むようにしましょう。

I P T 年間学習計画表

学期	月	単 元	主 な 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション	課題探求についてのガイダンス
	5月	課題探求	中間報告に基づく課題探求の深化
	6月		最終報告に向けたプレゼンテーション作成
	7月	課題探究最終報告 学校祭へ向けて	課題探究最終報告会の実施 学校祭リーダー研修会 一学期活動報告書の作成 (Google Classroom)
二 学 期	9月	学校祭への取り組み	学校祭の計画立案・準備および運営・実践 学校祭の振り返り
	10月	進路実現に向けて	志望理由書作成
	11月	進路学習	大学説明会 進路探究活動
	12月		二学期活動報告書の作成 (Google Classroom)
三 学 期	1月 2月 3月	3年間を振り返って	3年間の振り返り・活動履歴書作成 (Google Classroom)